

| Minami Kyushu University Syllabus | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|---------|---------------|-----------------|------------------|----------------|-------|
| シラバス年度 | 2021 | 開講キャンパス | 都城キャンパス | 開設学科 | | 人間発達学部 | |
| 科目名称 [英語名称] | 民俗学 [Study of Folklore] | | | 実務経験 教員担当 | ○ | アクティブ ラーニング | ○ |
| 科目コード | 750010 | 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 配当学年 | 1-4年次 |
| 教員氏名 | 地村 光広 | | | 学位授与の方針 との関連 | DP(1)(2)、2(1)(2) | | |
| 授業概要 | <p>小学校教諭経験、博物館等における行政ならびに専門的な経験、教頭・校長の管理職経験等で培ったことを生かし、将来を目指す学生諸君に、深い見識を身に付けさせるために実践していく。その内容として、民俗学は年中行事・信仰儀礼・民俗芸能等の無形文化、衣食住・生業・交通・社会生活等の有形文化について伝承から明らかにするものである。なかでも民俗資料は人々の生活を知るうえで不可欠なものであり、生きぬいてきた人々の生活を物語る貴重な文化財である。これらの資料から人々の生活の知恵や工夫、自然とのたぐみなかかわりを探ることができるものである。</p> | | | | | | |
| 関連する科目 | 宮崎の自然と歴史、都城の民俗 | | | | | | |
| 授業の進め方と方法 | <p>本授業は講義形式で行う。授業形態としては一斉指導を基本とするが内容によってはグループに分かれてのディスカッションや発表等も取り入れる。また民俗の視聴覚資料や民俗資料等の具体物を用いたり博物館見学等を行ったりして受講生が主体的に学習することができるような内容の工夫をする。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 民俗学について 第2回 民俗文化財について(有形・無形・分類等) 第3回 宮崎の民俗 第4回 山・里・海の暮らし 第5回 いのりとまつり 第6回 日向の山村生産用具① 第7回 日向の山村生産用具② 第8回 川の民俗 第9回 身近な食と民俗 第10回 商家の暮らし 第11回 みやざきの技 第12回 民俗資料の見方について 第13回 博物館見学(民俗展示室を中心として) 第14回 宮崎の民家 第15回 民俗調査の方法とまとめ</p> | | | | | | |
| 授業の到達目標 | <p>伝統・文化の意味を理解するとともに、先人たちの知恵や工夫・努力等に気づき、保存・継承等を含め自分たちの生活にすずんで取り入れようとする事ができる。</p> | | | | | | |
| 授業時間外の学修 | <p>【予習】次回のテーマに着目し関連資料等を参考にして理解しておく。(学修に係る標準時間は約2時間) 【復習】授業で学修した内容について要点をまとめておく。(学修に係る標準時間は約2時間) ※この科目は2単位であるため、講義以外に自分で上記のように60時間の学修を行うこと。</p> | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック | 毎時間小レポートを提出してまとめる。テスト終了時に模範解答を提示する。 | 評価方法 | 定期試験 平常点 100点 | | | | |
| テキスト | 決められたものはなし | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて図書や関連の資料を紹介する。 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |